

# 岩屋中だより

令和5年5月16日 NO4

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口猛

## 練習＋当日の頑張り＋支える力＝素晴らしい体育大会 1

令和5年度がスタートして1か月が過ぎました。学校生活の中では、大きな節目があります。その一つが体育大会です。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことから、参観の制限を設けず実施できました。

この体育大会に向けて、4月の半ばから練習に励んできました。体育大会は、練習から本番に至るまで、それぞれの学年で参加する上での意義や気持ちが異なっただけだと思います。

1年生にとっては、初めての体育大会なので、緊張感が練習から当日までいっぱいだったように感じます。2年生は、経験したことをもとに、先輩らしい動きが随所に見られたと思います。集団で動くその動き方に、経験が生かされていたと感じました。そして、3年生ですが、中学校生活最後の体育大会という強い思いがあったでしょう。凛とした姿勢、大きな声、機敏な行動。最上級生として、良い手本となりました。各競技・係の仕事に、全校をリードしたことをうれしく思います。

さて、何事も本番が重要であることは言うまでもありません。しかし、本番までの過程がどうだったかを振り返り、次につなげていくことが大事です。当日に充実感を得られたのは、これまでの練習やいろんな準備をそれぞれの立場で頑張り、互いに支えあうことができたからだだと私は感じています。この体育大会で学んだことが何か、そして、練習の中で身につけたことは何かを個人として振り返ること、そして、学級・学年という視点から振り返ることが大事だと思います。行事が終わって感じたこの充実感を、今後の生活に生かしてください。

さて、始業式、入学式で良い選手は、いいチームで育つということや「ありがとう」という言葉であられる集団をつくることについて話をしました。行事を通して、学級のチーム力、学年のチーム力はアップしたでしょうか？支えあう集団作りは進んだでしょうか？体育大会が終わった時に、互いに「ありがとう」という思いを抱くことができたでしょうか？そして、「ありがとう」を言葉にできたでしょうか？ぜひ、振り返り今後の生活のよりどころにしてほしいと思います。

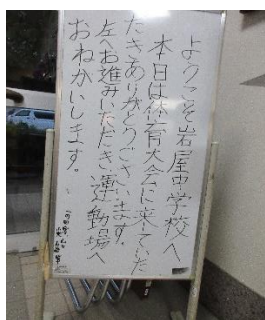
さて、大事なことはあと一つ。行事モードから普段の生活を大事にするモードに切りかえることだと思います。体育大会で揃えた「気持ち」を普段の生活につなげてほしいと思います。「簡単なこと」を大事にしていきましょう。当たり前のことを当たり前に行える力を身につけていきましょう。挨拶、身なり、給食の準備、授業態度、掃除、話を聞く態度、提出物など普段の生活の中で気持ちをそろえて取り組めることはたくさんあります。普段の学校生活がきちんとできてこそ、その集団の底力と言えます。行事だけ頑張るのでは本物になりません。また、嫌な思いをさせるチームでは、決して伸びません。互いのことを思いやり、笑顔で生活できる集団であることは、最低限大事なことです。プラス思考で頑張り、何事も率先して動いて自分たちを成長させる糧にし、一つ一つステップアップして強いチームをつくっていきましょう。次につなげることが新たな成功のスタートになります。良い練習ができれば、それは、チームとしても、個人としても強くなります。それが、本校が目ざす校訓の「力」です。

体育大会については、2回に分けてご紹介いたします。ご了承ください。

# よい練習+心を込めた準備=充実感を得られる結果



全体練習や昼休みなどを使った学級の練習の様子です。チームワークが  
この中ではぐくまれていきます。集  
団の力→個の力→個の力の結集→さ  
らなる集団の力→個の力の伸び



来賓へのウエルカムボードを書いたり、廊下やトイレなどの清掃も行って当日に備える様子です。



天幕までかぶせて準備したテントを、雨に備えて、天幕をいったん外しました。放課後のグラウンドの様子です



3年の教室に描かれた体育大会に向けての黑板アートです。意気込みが伝わってきます。

